

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R部会

地上業務委員会(第4回) 議事概要(案)

1 開催日時

平成21年1月29日(木)10:00～12:10

2 場所

総務省 9階 第3特別会議室

3 出席者(敬称略、順不同)

[構成員]

高畑 文雄(主査)、足立 朋子、飯塚 留美、小坂 克彦、阪田 史郎、佐藤 明雄、
佐藤 孝平、土田 敏弘、中村 勝英、橋本 明

[説明者]

新 博行、石川 禎典、小松 裕、畑川 養幸

[事務局]

坂中移動通信企画官、西室係長、江原官(移動通信課)

4 配付資料

資料地－4－1	地上業務委員会(第3回)議事要旨(案)
資料地－4－2	ITU-R SG5 WP5D 第3回会合報告書
資料地－4－3	ITU-R SG5 第2回会合報告書
資料地－4－4	第4世代移動通信システムの無線方式に関する日本提案について(案)
資料地－4－5	ITU-R SG5 WP5D第4回会合への日本寄与文書(案)
資料地－4－6	ITU-R SG5 WP5D第4回会合への対処方針(案)
参考資料1	ITU-R SG5 WP5D第4回会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG5 WP5D第4回会合の日本代表団一覧
参考資料3	地上業務委員会 構成員名簿

5 議事概要

議事に先立ち、地上業務委員会の構成員の見直しがあったので、高畑主査の挨拶のあと、専門委員の自己紹介が行われた

(1) 地上業務委員会(第3回)議事概要について

【資料地4-1】

地上業務委員会(第3回)議事概要(案)について、特段の意見なく承認された。

(2) ITU-R SG5 WP5Dの報告について

【資料地4-2、4-3】

事務局より、平成20年10月に開催されたWP5D第3回会合の報告があり、特段の意見なく承認された。

(3) 第4世代移動通信システムの無線方式に関する日本提案について(案)

【資料地4-4】

佐藤(孝)構成員より、IMT-Advanced無線インタフェース提案に関する今後の基本的な対応方針の説明があり、文言修正をおこなった上で承認された。

(質疑応答)

小坂 構成員： その他諸外国との協調はどうなっているのか。

佐藤(孝)構成員： 日中間の枠組みや、APT関連会合でアジアとしての協調をはかる。また、グローバルスタンダードコラボレーションと呼ばれる、ITUを含めた全標準化団体が集まる会合が年1回開催され、そこで協調をはかる。

橋本 構成員： 本方針は、国の方針であるか。

事務局： 本地上業務委員会でご審議頂いた内容は、国の方針となる。

橋本 構成員： 6、7ページに記載のある「基本的支持」という意味は、標準化団体(3GPP, IEEE)の提案内容について支持なのか、活動の方向性について支持なのか明確にすべき。

佐藤(孝)構成員： 活動の方向性について支持という意味である。

(4) ITU-R SG5 WP5D会合への日本寄書(案)について

【資料地4-5-1】

畑川氏より、勧告ITU-R M.1580とM.1581の改訂にあたってのTest toleranceの取り扱いに関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

橋本 構成員： 本文書は、Test toleranceに関する新しい情報を要求するものか。

畑川氏： 否。本リエゾン、現状の各SDOの情報をまとめているものである。

高畑 主査： 新たにTest toleranceの取り扱いを変更すべきという情報は出てきているのか。

畑 川 氏 : 今のところ無いと考えている。

【資料地4-5-2】

石川氏より、Femto Cellに関する検討の進め方に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

高 畑 主査 : フェムトセルに関する検討状況如何。

石 川 氏 : 具体的な技術的検討に関しては、今回が初めての提案である。第1回 WP5D会合で将来的検討事項の1つに、フェムトセルという用語の記載はある。

佐藤(明)構成員 : 陸上移動以外で、条件が異なればフェムトセルの定義が変わる可能性もあるのでは。

石 川 氏 : まずは、陸上移動の中での定義を考えている。陸上移動以外の広いシステム間の話になれば、再度検討が必要かもしれない。

小 坂 構成員 : 用語の定義は議論すべきではない。

石 川 氏 : 陸上移動という枠組みで考えている。陸上移動以外の広いシステム間においては、定義は異なるかもしれない。

佐藤(孝)構成員 : 議論が発散する可能性があるので、IMT用のフェムトセルという意味で検討すべき。

石 川 氏 : 了。

【資料地4-5-3】

佐藤(孝)氏より、IMT-Advanced無線インタフェース検討の各Stepの責任部署に関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、関係者と調整した上で、メール審議を行うことが決まった。

(質疑応答)

佐藤(孝)構成員 : IMT WGでも議論があったように、新たなWGをつくるには、大変であり既存のWGでも対応可能ではないかという意見があった。その後関係者と検討をした結果、以下のような案ではどうか。

- step3,step7 AH-CL が担当

- step8 SWG M.1457 and/or Radio Aspects が担当

(step8 が始まるのは2010年以降であるので、必要に応じて後ほど検討すれば良い。今の段階では、担当を SWG M.1457 and/or Radio Aspects としておく)

橋本 構成員： 担当部署を決めるのはWP5D議長の仕事ではないか。寄与文書を提出する際には、議長および関係者と相談の上、提出の仕方等を検討する必要がある。また、Step8 の担当部署は、TBDとしても良いのでは。

佐藤(孝)構成員： 先程申し上げた関係者の中にWP5D議長も含まれており、事前に相談はしている。いずれにしても、再度WP5D議長および関係者と内容を含め相談し、修文をした上で、地上業務委員会の皆様にはメール審議を実施させていただきたい。

事務局： 了。

【資料地4-5-4】

新氏より、M.1036-3改訂勧告草案に向けた作業文書の第1～6章の修正提案の提案に関する寄与文書案について説明が行われ、エディトリアルな修正を施した後、承認された。

【資料地4-5-5】

新氏より、3400-3600MHzの周波数帯におけるIMTのための周波数アレンジメントに関する寄与文書案について説明が行われ、本寄与文書案は、韓国との共同提案を予定している旨の説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

小坂 構成員： external band という用語は一般的な用語なのか。

新氏： P.4の5行目に説明が記載されている。また、過去に2.5GHz帯の周波数アレンジメントを決めた際にも使用されたこともある。

橋本 構成員： external band の利用は、open issue とあるが、どういう意味か。

新氏： FDD方式の場合、どの部分を external band とペアバンドとして使うか最低限決める必要があるため open issueとした。

高畑 主査： MSが低い周波数、BSが高い周波数とするのがなっているが、外部要因を考えた場合、本当に良いのか。

新氏： 移動通信の観点から見ると、その方が良い。衛星との共用も考えた場合、逆の配置もあり得るので、open issueとしている。

【資料地4-5-6】

新氏より、新報告暫定草案ITU-R M.[IMT.700]の作成に対するコメントに関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

高畑 主査： 700MHz帯と900MHz帯をペアで使用することは総務省で決まっている

のか。

事務局 : 過去の情報通信審議会の技術分科会で、700MHz帯と900MHz帯をペアで使うことが望ましいという一部答申を頂いている。FDD方式で使うことを想定しているが、今後の技術の進展によっては、TDD方式で使う可能性があるとしている。

新 氏 : 今の内容は、P.3 ATTACHMENTの13～17行目に記載がある。

飯塚 構成員 : この周波数帯は、地デジ跡地であるが、他の諸外国との協調は、行っているのか。

新 氏 : 韓国との事前相談はしてある。日本の情報通信審議会の一部答申を踏まえた内容なので、日本単独で提出することを予定である。各国と特段のワークショップ等を行っていないが、実際の会合で相談する予定である。

【資料地4-5-7】

小松氏より、WP4Aへのリエゾン返答のためのドラフトエレメントに関する寄与文書案について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(質疑応答)

小坂 構成員 : Attachmentの11行目「too conservative methodology」とは何か。

小松 氏 : 初めから自由空間伝搬という最悪条件のみで検討することは、不十分であり、過度に保守的なものは避けるという意味。

小坂 構成員 : 通常、新しい作業を始めるドキュメントは、既存のITU-R勧告を使うのが普通ではないか。

小松 氏 : WP4Aでは、勧告S.1712での「他の周波数帯における他の帯域におけるメソドロジー」を参考に検討している。

橋本 構成員 : Attachmentでどのリエゾンのことを示しているか不明瞭であるため、明確にすべき。

小松 氏 : 了。

【資料地4-5-8】

小松氏より、レポートITU-R M.2135におけるチャンネルモデルのソフトウェア実装に関する寄与文書案について説明が行われ、特段の質疑なく承認された。

(5)ITU-R SG5関連会合への対処方針(案)について

【資料地4-6】

事務局より、ITU-R SG5関連会合への対処方針(案)について説明があり、資料地-4-5

－3が寄与文書として提出されない場合は、本対処方針(案)の表現を一部修正しメール審議を行うことで、承認された。

(6)その他

【参考資料1、2、3】

事務局より、参考資料について説明があった。

外国寄与文書の対処については対処方針の通りとし、特に審議が必要と思われるものについては、主査との相談又は地上業務委員会でメール審議をお願いする旨、事務局から説明が行われた。

併せて、承認された寄書について、今後他国との調整等により趣旨を変えない範囲で共同寄書とする等、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。

以上